

し、議会とともに議論しながら進めてまいります。

問 サッカー場整備の今後のスケジュール、財源確保の見通し、施設整備後の管理運営体制と経済効果は。

答 財源については、国の補助金2/3が受けられた場合、残りの1/3に合併特例債を充てること、その7割分が交付税に算入され、実質的に市の経費を極力少なくする方法を考えております。また、年間4、200万円の経済効果が見込めると予測しており、適正な管理体制も含め、今後議会や市民の皆さまのご意見を十分お聞きし、ご理解のもと進めてまいります。

問 「本庁舎移転新築ではなく、支所機能の充実強化」との話があるが、各支所を合併当時の状態に戻すとすれば、何人の職員が必要で人件費はどのくらい必要か。

答 保健師等の専門職を除き、一般行政職で145人の増員が必要であり、これに見合う人件費は単年度で約10億8千万と推計されます。

問 行政区画が大きな市であるから、各地域の実情に相応しい適正な規模の支所機能を早急に確定させ、住民サービスを低下させない人材育成が喫緊に求められる事であって、合併前の役場と同様の機能を各支所に割り当てる必要があるのか。

答 行政運営の適正化・効率化を、市民サービスの向上の観点から、統合庁舎整備に重点を置くべきと考えます。しかし、庁舎から離れた地域へのきめ細かな行政サービスの提供は不可欠であり、統合庁舎や各支所のあり方について調査検討を行い、方向性を詰めてまいります。



福祉施設への利用が求められる農業試験場湖西分場跡地



安曇川駅周辺を元気に

福井 節子 議員

「安曇川駅周辺が寂れた。地域活性化を」の市民の声にこたえて、

問 試験場跡地利用に、安心して入れる介護施設を求める声大きい。また、障がい者施設・児童館等の要望も。旧平和堂店舗の活用もまだ決まっていないことから、平和堂の社会的責任を求め、全体を福祉ゾーンにする

ことが考えられないか。

答 政策部長 農業試験場跡地については計画に基づき市内全体での調整を図っており、時間をかけて慎重に取り組みたいと考えています。

問 四季折々の花等で、駅前をきれいに明るく整備を。

答 土木交通部長 市職員と管理委託先において、引き続き適正に管理していきたいと思えます。

問 公共交通の充実は、地域活性化に直結していると考えます。

答 産業経済部長 旧平和堂店舗跡地については大きな課題と認識しており、引き続き平和堂等関係機関との交渉を続けます。

問 防犯灯増設、商店街の街路灯の管理・更新に市の責任と支援を。

答 政策部長 防犯灯は、防犯上問題がない照度が確保されていると考えます。

る。ドアtoドアなど利便性高い公共交通の抜本改正で、人が行き交うまちづくりと地域活性化を。

答 毎年バス運行業者と協議を行い、運行ダイヤの改正やフリー乗降制の充実を図っていますので、引き続き運行状況の検証を行い、持続可能で効率的なバス体系の構築に努めます。

問 今後増加する卒業生の進路保障と、障がいを持つ高齢者の介護施設整備を。

答 健康福祉部長 障がい者が出来る限り地域で働き、生活ができるよう、関係機関と連携し日中活動系サービスの整備、充実を図ります。障がい者専用の介護施設等については、介護保険制度で一定の体制が整っていますので、現在のところ新たな施設整備は考えておりません。

問 養護学校卒業生の進路と障がい高齢者の処遇

答 議員に説明されたものが議案提出になった

問 私は今期4年間、琵琶湖の水環境と生態系の保全は、本来の機能を失った内湖の再生が喫緊の課題である、また、琵琶湖交付税の一部投入など何度も訴えましたが、当局は全く受け入れる事なく今日を迎えました。そんな中、先般「琵琶湖保全に内湖活用」という見出しで新聞に掲載されました。その内容は琵琶湖の水質保全を担ってきた内湖の役割を再評価し、生態系の再生を目指すとしてあります。県琵琶湖政策課は「ビジョンで示される機能回復をそれぞれの内湖で実現したい」としています。当局はどのように捉えられ、今後の取り組みは。

答 市民環境部長 現在、県において、琵琶湖周辺にある内湖の総

琵琶湖の環境保全と内湖の役割について

梅村 彦一 議員

合的な保全と再生準備に向けた「内湖再生ビジョン」の策定作業が進められています。この「再生ビジョン」は、市内では松ノ木内湖を含む7つが対象となり、目指すべき目標の実現には、地域住民・民間・行政の責務と役割分担を明確にし推進することとなっております。今後、地域の皆様のお力もいただきながら、市としての一定の役割を果たしてまいります。

高島市道路整備について

問 平成21年6月に作成された道路整備プログラムの中で、市道青井川線1,800mの改良工事が前・後期で進められている。しかし、9月議会で市長は後期分は中止



多くのサッカー利用者が訪れる今津総合運動公園



サッカー場整備の経過と市庁舎について

八田 吉喜 議員

問 議会の真価が問われるような広報がされているが、市民に対してサッカー場用地を取得するに至った経過などを説明する必要がありますのではないかと。この事業が唐突に浮上したように言われているが、議員に説明されたものが議案提出になった

と思うがどうか。

答 政策部長 この事業は決して唐突に提案したものではありません。今津総合運動公園の活性化、更に宿泊施設等への波及効果による地域の活性化を目的に、サッカー場の整備について平成21年に調査業務を開始

し、大塚南市線を優先すると発言。今後の取り組みは。

答 土木交通部長 青井川線改良工事は、道路整備プログラムのAランクに位置付け、平成22年度から歩道整備等の道路改良工事に着手し、平成25年度末に上小川交差点から横江点滅信号間が完成予定です。なお、横江点滅信号から湖周道路までの残りの区間についても、継続的に実施する方向で検討しており、本路線の早期完成を目指したいと考えています。今後の道路整備については、地域の実情を見極めながら、特に危険で緊急性の高い路線等を総合的に判断し、また優先度を考慮しながら実施したいと考えています。



歩道整備等道路改良工事が進む市道青井川線